

# 社会科 学習指導案

松原市立松原北小学校

1. 日 時 令和7年12月2日(火)第5時限 13:40~14:25

2. 場 所 第5学年 教室

3. 学年・組 第5学年

4. 単元名 森林とわたしたちのくらし (使用図書・教科書:日本文教出版)

5. 単元の目標

森林資源の働きについて調べ、私たちのくらしが森林と密接な関係にあることに気づくとともに、その森林は、育成や保護に従事している人々の工夫や努力によって支えられていることを理解し、その人々の現状とともに課題や、これから森林資源とかかわっていく際に、どのようなことに取り組んでいくかを考えると共に、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

6. 単元で取り上げる言語活動

- ・資料(写真・表・グラフ)から情報を読み取りそこから変わったことを伝えあう。

- ・読み取ったことを出し合って、チームでより意見を深める。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。</li> <li>・各種の資料などで調べ、まとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現している。</li> <li>・国土の森林保全のために自分たちに協力できそうなことを選択・判断して、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。</li> </ul>

8. 指導にあたって

本学年の児童は、授業では思ったことを積極的に口にする児童と、中々言えない児童がはっきり分かれている。意見を深めるためにゆっくり考える時間をとることが苦手な傾向にあるためゆっくり考える時間を大切にしてきた。

社会科では、4年生の時から社会の授業では、MQ(メインクエスチョン)【めあて】とMA(メインアンサー)【まとめ】を考えて学習している。単元ごとに「単元のMQ」を設定し、それを自分の言葉でMAを考えてきた。少しづつ、自分で資料を読み込んだり、そこから考えたことを発表したりしている。

今回の学習では、資料を読み解いたことをお互いに議論する時間を大切にして、意見をより深めてそれを伝えることを大切にしていきたい。

9. 指導と評価の計画(全○時間) ○…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	日本と世界の森林を比較し、日本には多くの森林資源があることを知る		○		

	2	森林には8つの役割があることを伝えあう			○	
	3	林業の仕事について学ぶ	○			
2 本時	4	林業の事故率と高齢化による林業従事者の減少について考える	○			
	5	日本の木材の輸入量の多さについて考える (言語)ジグソー学習を行う		○		ジグソー学習の様子【思】 ・自分の考えを伝える
3	6	木づかい運動などの取組みを知り、共通することは国産の木材を使おうとする動きであることに気づく			◎	ノート【態】 MAを自分の言葉で書くことができる
	7	森林を保全するために地域、社会、林業ができる ことを調べる (言語)調べ学習、発表 ※学校図書館の活用	◎			調べ学習【知】 ・今までに習ったことを元に調べ学習を進められる
	8					
	9	国土の安全のために森林資源を守ることに個人や企業がそれぞれ取り組んでいく必要があることに気づく (言語)まとめる		◎		まとめ【思】 ・学んだことを元に書くことができる

## 10. 本時の展開(5/9時間目)

## (1) 本時の目標

- ・日本の木材が海外の木材と比べて安くなってしまっている要因を考える。【思考・判断】

## (2) 本時の評価規準

- ・なぜ輸入に頼っているかを資料から読み取り、分かることを表現している。

## (3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
8分	<p>○大屋根リングを見ながらどこの木材を使っているのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国産が7割使われている</li> <li>・外国産としてはフィンランド産が多く、国産としては高知県の木材が多い</li> <li>・比率を見て感想を伝え合う</li> </ul> <p>○日本の木材輸入と輸出の差を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材自給率は43%である</li> <li>・輸入量の変化を確認する</li> </ul> <p>○木材価格を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ産の方が価格が高い</li> </ul> <p>○本日のめあてをつかむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国から多くの木材を輸入していることをおさえる。</li> </ul> <p>資料① 大屋根リングで使われている国産木材の割合</p> <p>資料② 日本の木材自給率</p> <p>資料③ 日本の木材とアメリカの木材価格表</p>	
MQ 日本の木材の方が安いのに、なぜ外国から木材を輸入しているのか。			

5分	○MQ に対しての予想をする ・なんで高い木材を使うんだろう? ・品質がいいのか? ○ジグソーラーラー学習を行う	今までの学習で多かった外国産は安いものが多いいイメージを共有しておく。	
	【なぜ高い外国の木材を使用するのか。】 ①、日本の木材市場の変化を確認する ・輸入品が戦後を機に一定以上の割合になっている ※供給ルート ②森林の環境について考える ・日本で木材を育てるのは険しくて困難 ③日本と海外の森林を育てる人の収入について考える ・木を作っている人の収入がどんどん下がっている。 ・海外よりも少ない ※木の作り手が減る ④、日本と海外の木材の質の差と日本の国土について考える ・水分量が日本の方が多いとどうなるか考える ※製品化までの時間と場所 ⑤、木材ができるまでを確認する ・一つの会社が色々なことを行っている ・山元から買主に届くまでに多くの業者を通している ○グループで話し合う ・国産木材の方が安い ・どんどん自分たちの収入を削っている ・戦後どんどん輸入が増えて助けてもらっている ・外国の方が売るまでがシンプル	資料④ 過去の日本の木材の収益の分配の変化の表 資料⑤ 森林の環境の違い 資料⑥ 山元の取り分の変化  資料⑦ 木材の水分量 日本と海外の面積の差(保管場所)  資料⑧ 色々な企業が利益をださないといけない	
8分	○グループで話し合う ・国産木材の方が安い ・どんどん自分たちの収入を削っている ・戦後どんどん輸入が増えて助けてもらっている ・外国の方が売るまでがシンプル	・それぞれのグループで学んできたことを共有する。	
	○グループで MA を考える。  MA 海外の方が木材の供給がしっかりされており、加工しやすく、量も安定して手に入るから。		
9分	○グループで MA を考える。  MA 海外の方が木材の供給がしっかりされており、加工しやすく、量も安定して手に入るから。		・輸入に多く頼ってしまっている要因を、価格競争などの視点で考えることができている。 【思考・表現】(ワークシート等)

## (4) 本時における具体的な子どもの状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
日本には森林資源が多いが、輸入の方が多くなってしまっている要因を、森林保全や従事者の減少などこれまでの学習と結び付けて考えている。	ジグソーラーラー学習を選ぶ際にまとめやすいコースに行くように促す。 ジグソーラーラー学習で持ち帰る情報をまとめておき、視覚的に 4 つの視点を見られるようなヒントカードを提示する。